

令和 4 年 度

(自 令和 4 年 4 月 1 日～至 令和 5 年 3 月 31 日)

事 業 報 告 書

公益財団法人 京都国際学生の家

事業報告書

当法人は、「京都に学ぶ各国学生の健全で有意義な共同生活を助成するとともに、その知性、徳性及び靈性の向上をはかり、併せて国際親善と相互理解の増進とに寄与し、もって不特定多数の公益に寄与することを目的とする。」（定款第3条）ことを目的としている。

世界各国から国際学術都市京都に來り学ぶ外国人学生と日本人学生に、学寮という生活の場を提供し、月間・年間を通じた行事や毎日の地道な活動を通じて、ハウスの創始者であるスイス人牧師、故ウエルナー・コーラ（Werner Kohler）博士の提唱した「共同の生」を体験させることによって、この国際理解と親善の増進を計る。この「共同の生」とは、我々の現存在の表面的な調和的共存を意味しているのではなく、異なる国家あるいは民族の間に厳然として存在する人種、宗教、慣習、文化さらにはイデオロギーといったものの相違を、寮生相互に対決（confront）させ、これらの相違を互いに認め合った上で、一個の人格としての「出会い（Begegnung）」を体験させることである。この「出会い」を通じて、相互の相違を認識し、相互に承認し合うという、きわめて厳しい努力と体験を通じて得られる寛容（Tolerance）が、人類普遍の願望である人類共存の道を達成する有力な手段であると信じ、この「出会いの家（別称）」という屋根の下で営まれる「共同の生」の実現と維持を続けている。開館以来56年間に、寮生用34室を利用した寮生は世界の83ヶ国から1062名、併設されている研究員用11室を利用した学者、研究者は96ヶ国から3095名の多きにのぼる。これらの寮生、研究者達は、京都における学際的研さんの成果と共に、この「家」で体験した人間同士の愛と連帯意識をもって世界中で活躍している。

半世紀が過ぎ、建物は老朽化し、耐震補強や電気・水道などを改修する「本館の耐震改修」と「研究者棟の建て替え」に直面し、募金委員会を2017年6月に立ち上げた。当財団の将来のあり方を検討して、当財団の建物の耐震・改修工事、新研究者棟の建築を計画し、第1期改修工事として、耐震補強工事と老朽化したガス管の更新を実施した（2020年6月完了）。また、第2期新築工事として研究者棟の建設を検討しているが、目下のところ本館の水回りの保全の問題があり、保全委員会を中心に対応にあたり、改修工事を実施した。

新型コロナウイルスのパンデミックによりこの二年ほど、海外渡航が制限され、寮生、スカラーが入ってこないという経済的な非常事態に陥っていた。しかし、2/3のレジデントではあったものの、一般財団法人日本メイスン財団による助成金、（独）日本学生支援機構留学生地域交流事業助成金や一般財団法人MRAハウスによって得られた活動資金を活用して、国際交流事業を継続した。

I. 事業の概況

1) 学生及び研究者の国際交流の場としての宿泊施設の設置及び運営

(1) 京都「国際学生の家」

	学生用	研究者用	備 考
収容定員	34 室	6 室	研究者用にはツインルーム 1 室あり

(2) 利用状況

○学生の部（令和 4 年 4 月より令和 5 年 3 月）

国 別	人員	研 究 機 関 別	人員
日本	11	京都大学	20
中国	8	京都産業大学	1
アメリカ	2	同志社大学	4
イギリス	1	同志社女子大学	1
インド	1	放送大学	1
ウガンダ	1	NCC	4
ドイツ	4		
タイ	1		
ベトナム	1		
マダガスカル	1		
合 計	31	合 計	31

○研究者・学者の部

台湾	2
日本	2
中国	4
ロシア	1
ドイツ	1
スイス	1
ポーランド	1
合 計	12

(3) 学生及び研究者の生活・勉学の援助及びカウンセリング

原則として、一家族が、ハウスペアレント（学寮管理者）として、学寮内に居住して、寮生の生活のアドバイス、勉学援助やカウンセリングなどに当たっている。そのハウスペアレントを補助する機関として、学生の入寮時の面接、カウンセリングなどを行う学寮運営委員会（ハウスコミッティー）が組織され、活動している。

(4) 行事・活動：

下記のような月間・年間を通じた行事や日常活動を通じて、異なる国家あるいは民族の間に厳然として存在する人種、宗教、慣習、文化さらにはイデオロギーといったものの相違を、入寮学生・研究者相互に対決させ、これらの相違を互いに認め合った上で、一個の人格として出会う「共同の生」を体験させている。この様な相互の相違を認識し、相互に承認し合うという、きわめて厳しい努力と体験を通じて得られる寛容が、人類普遍の願望である人類共存の道を達成する有力な手段であり、このことが同じ屋根の下で営まれる「共同の生」を通じて実現できると期待している。

各寮生には、ハウスの維持のために必要な仕事（当番：例として、ハウスキーパー当番、スポーツ当番、コモンミール当番など）を分担させている。また、一緒に食事や音楽、スポーツ等を楽しめるような共有設備（共有台所、ピアノ、広い応接室、卓球台、ビリヤード、バレーボールコート等）を備え、自然に「共同の生」に参加できるような仕組みとしている。

※本年の行事の内、前期コモンミール（5月～7月）、市民公開講座、国際食べ物祭り、セミナー、感謝祭、クリスマス・パーティは「(公財) 中島記念国際交流財団助成」(独) 日本学生支援機構留学生地域交流事業助成金により実施された。

また、後期コモンミール（10月～2月）は「一般財団法人 MRA ハウス助成金」により実施された。

① 月間定例行事

○ほぼ月に2回 19:30～21:00 チーム・ミーティング

半期ごとに学生から選出されたチェアパーソン、バイスチェアパーソン、書記、会計とハウスペアレントがチームという自治組織を作り、全員参加のハウス・ミーティングの前に、ハウスで起こる諸問題やセミナー等を含めた種々の行事の打ち合わせを行っている。

○ほぼ月に2回 18:30～20:30 コモン・ミール（夕食会）

「コモンミール」は、当番制で作る寮生の自国料理を皆で楽しむ夕食会のことで、寮生達が友好を深め、異なった国々の文化を理解する第一歩であり、「共同の生」の入り口であると考えている。皆と一緒に「会食をする」ということは、多様な地域の文化・慣習・宗教などを一番簡単に、しかも深く感じることのできる行為だと私たちは考えて行っている。※但し 2021 年度はコロナの影響により一部オンラインにて開催。

○ほぼ月に2回 20:30~22:00 ハウス・ミーティング

コモンミールの後に、ハウスペアレントも含めて、寮生全員参加の一番重要な会議である。寮生のチェアパーソンを議長に、ハウスで起こる諸問題を取り上げ、全員で議論を闘わせ、解決への努力をしながら「共同の生」を体感している。※但し 2021 年度はコロナの影響により一部オンラインにて開催。

② 年間定例行事

○新入生歓迎会：令和4年4月8日（金）、令和4年10月7日（金）

前期と後期で年に2回、寮の理事やハウスコミッティの委員が参加。理事長や理事の挨拶後、国際寮の生活に早く馴染めるよう、寮生の委員によるハウスのガイダンス、及び新入生の自己紹介等が行なわれた。

○スポーツデイ：令和4年5月28日（土）

本年は春に一度、スポーツを通じて、寮生達の交流と親睦を兼ねたスポーツデイを行った。本年度は伏見稲荷を参拝し、頂上までハイキングを楽しんだ。

○国際食べ物祭り：令和4年8月7日（土）

「食を通じた国際親善活動」と位置づけられている行事で、各国(9~10カ国)留学生のお国自慢の料理を、ダンスパーティ等でご迷惑をお掛けしているHdB周辺の住民の皆さんや、寄附を下さった方々や友人を招待して、食を通じて、寮の雰囲気や世界を実感してもらう定例行事。本年度はコロナ感染対策を講じながら交流を行った。

○感謝祭：令和4年11月19日（土）

学寮に寄附して下さった方々や団体、日頃お世話になっている人達をご招待して、各国のお国自慢の料理の腕を振るい、感謝の気持ちと学寮が多くの人

達の善意で成立していることを理解する定例行事が行われた。本年度はコロナ感染対策を講じながら交流を図った。

○セミナー：

市民公開講座：令和4年6月25日（土）

- ・秋津元輝教授（京都大学大学院農学研究科）「食の領域からローカルな暮らしを組み直す：政策提案のためのアクションリサーチの試み」
- ・ハギギセパンタ氏（慶応義塾大学非常勤講師）「ハウスの扉、美への扉：イランで出版されたペルシア語による日本美術事典の紹介」
- ・平松幸三氏（京都大学名誉教授）「グローバルの時代に生きる」
- ・寮生3人（外国人留学生と日本人学生）

日本庭園講習及びお茶会：令和4年10月31日（日）

庭師の中村長太郎氏を講師に迎え、日本の庭園の歴史、茶道の紹介を行った。また同日中村氏の指導のもと、寮生たちの手によってハウスの庭園を伐採、剪定した。庭が見違えた様に寮生たちも非常に喜んだ。その後、高田徳子氏によるお茶会が催された。

○トリップ：令和4年12月10日（土）、11日（日）

寮生・ハウスペアレンツで和歌山観光を目的とし、和歌山マリーナシティ、白崎海洋公園を訪れた。天然の温泉に入り、千畳敷を見学するなどして交流を深めた。ただ今年度のトリップでは昨今の物価上昇に伴い、予算内での宿泊旅行を行うことが難しく、来年度以降は計画の変更を予定している。

○クリスマス・パーティ：令和4年12月17日（土）

日本的な意味でのクリスマスの名を借りた寮生達の「忘年会」である。本年はコロナ感染対策を講じた上で実施された。自慢の料理やケーキを作り、一緒に食事をし、余興など、一年を振り返りながら、親睦を図る楽しい行事であった。

○クリーニング・デイ：令和4年8月8日（月）、令和5年1月21日（土）

年に2度、寮生全員で、学寮の共有スペースである卓球室、ビリヤード室、応接室、洗濯室、キッチンなどを清掃する。自分たちの生活空間を自分たちで、清掃し、整理整頓にすることで、生活空間を快適にする目的で行った。

③ 図書の刊行頒布

会誌等の刊行：「2022年度 YEAR BOOK」の刊行。

学寮の公式の出版物である。一年間の学生達の活動報告や、元寮生の経験談、寮としての公式の活動を記録して、関係者に配布し、学寮の活動を理解して頂く出版物である。本年も第4回市民公開講座を特集にして、コロナの影響で寮生が少なかったことで学生文集も兼ねて発行することとなった。

2) 不動産等の管理と運営

行事・活動：

寮の空きスペースを利用して、駐車場を設置し、後援会会員に貸与を行っている。区画数 29 台あり、空きが出た場合には、駐車場に掲示するとともに、近隣住民の後援会会員に連絡し、募集を行っている。

II. 庶務の概要

1) 役員

理事長	内海博司	京都大学名誉教授
常務理事	吉川晃史	関西学院大学教授、公認会計士
理事	山本慶一	ハウスファザー
	上村多恵子	京南倉庫(株)代表取締役社長
	嘉田良平	四条畷学園大学教授
	吉村一良	京都大学教授
	RUSTERHOLZ Andreas	関西学院大学文学部教授
	永井千秋	(公財)新産業創造研究機構 技術アドバイザー

監事	浅田拓史	大阪経済大学准教授、公認会計士
	折田康広	弁護士
	秋津元輝	京都大学教授

学寮運営委員長	山田祐仁	学校法人辻料理学館
学寮運営委員	坂口貴司	三菱電機(株)
	鈴木あるの	京都橘大学教授
	TANANGONAN Jean	近畿大学講師
	DAVIS Peter	テレコグニックス CEO
	松橋眞生	京都大学准教授
	長谷川真人	京都大学教授
	北島薫	京都大学教授
	笹山忠則	大阪府立大学名誉教授、 寿テレコム放送舎(非営利)代表
	Naresh Bedi	元ハウスファザー
	Joseph A. Phillips	元ハウスファザー
	山本慶一	ハウスファザー
	山本夏子	ハウスマザー

2) 評議員

	吉田和男	京都大学名誉教授
	山田祐仁	学校法人辻料理学館
	平野克己	日本塗装機械工業会専務理事

- | | | |
|--------|---------|--------------------------|
| | 村 田 翼 夫 | 筑波大学名誉教授 |
| | 深 海 八 郎 | 眺八海倶楽部総支配人 |
| 3) 顧 問 | 所 久 雄 | 社会福祉法人
京都国際社会福祉協力会理事長 |
| | 平 松 幸 三 | 京都大学名誉教授 |
| | 森 棟 公 夫 | 梶山女学園大学教授 |
| | 柴 田 光 蔵 | 京都大学名誉教授 |
| | 岩 崎 隆 二 | 和晃技研(株)代表取締役社長 |
| | 諏 訪 共 香 | 日本語教師 |
| | 西 尾 英之助 | 京都日独協会会長 |
| | 中 島 理一郎 | 元同志社大学教授 |
| | 蔦 田 正 人 | 蔦田内外国特許事務所代表 |

4) 職員

氏 名	担 当 事 務	備 考
水谷内 典 子	法人事務及び経理事務等	
吉 竹 慶 一	学寮の維持管理 (学寮外周り)	
樋 口 洋 子	法人事務及び経理事務等	

5) 後援会員 (詳細についてはイヤーズブックに記載。)

法人会員	10
個人会員	50
OB会員	980

6) 理事会

回・年 月 日	議 題	結 果
第 30 回 令和 4.5.18	1. 寄附受入の件	承認
第 31 回 令和 4.6.5	1. 第 29,30 回理事会議事録の承認の件	承認
	2. 令和 3 年度事業報告の件	承認
	3. 令和 3 年度決算報告の件	承認
	4. 第 17 回評議員会開催の件	承認

第 32 回 令和 4.12.3	5.修繕計画について	承認
	1.第 31 回理事会議事録の承認の件	承認
	2.修繕状況について	承認
	3.土地の契約更新について	承認
	4.学寮運営委員の選任について	承認
第 33 回 令和 5.3.25	5.定款変更に向けての評議員会の開催について	承認
	1.第 32 回理事会議事録の承認の件	承認
	2.令和 5 年度事業計画・予算について	承認
	3.第 19 回評議員会の開催について	承認
	4.共益費の値上げについて	承認
	5.修繕状況について	承認

7) 行政官庁の指示に関する事項

該当なし

8) 契約に関する事項

該当なし

9) 寄附金等に関する事項

(1) 寄附金・寄附物品（使途指定なし）

寄附者（敬称略・順不同）：財団の維持及び活動経費として受け入れ、目的に応じて支出した。

KevkhisviliRusudan、TSAIYOUSHAN、VincentBrilling、WUQINGHUA、朝倉寛之、浅野覚文、浅野安沙、井形彰利、石原ゆき子、稲葉カヨ、岩田忠久、岩沼享子、岩根麻結美、ウーチャンユー、上田学、内海仁美、内海博司、江口翠、大畑京子、大畑浩志、岡田徳子、岡本修身、岡本徳子、荻原悦子、小野公二、加藤克馬、かまの外科医院 鎌野幸子、鴨田昭代、北島薫、木原文太左右衛門、金盛彦、金羅煥、窪田弘、小谷夏美、児玉靖司、琴浦良彦、小西淳二、木葉丈司、小林萌子、近藤哲理、齊藤眞弘、坂口貴司、坂野泰治、四宮隆、杉山喬一、鈴木武夫、高田徳子、竹田洋子、多田譲治、田中治、田中ジョン、田中徳壽、谷幸治、田森行男、千葉絢子、張博訳文、手塚修司、寺本美智子、土居貞往、十河智江子、内藤義弘、永井千秋、仲谷正博、成田康昭、西本太観、野田和伸、ハギギセパンタ、長谷博友、平野克己、平松幸三、福本和久、福本学、藤原邦夫、古川彰、古川千佳、ボーイスカウト京都第 42 団谷口平八朗、前上

英二、前川晃一、眞木恵子、松田敬一、三浦一郎、宮本桂子、村田翼夫、森棟公夫、柳田由紀子、藪下義文、藪田定男、山岸秀夫、山下進一、山本雅英、山本慶一、山本夏子、有限会社ハイナン 土屋俊宏、吉川晃史、(株)三悦代表取締役 樋田浩三、(株)トータルサポートサービス、匿名 1 名

合計 2,158,200 円、(株) DTS 株式 4,000 株ほか

(2) 補助金・援助金

補助金の種類	補助者	補助金額	備 考
一般財団法人 日本メイスン財 団助成	一般財団法 人日本メイ スン財団	940,000 円	京都国際学生の家 の老朽化施設の改 修工事
留学生地域交流 事業	日本学生支 援機構	360,000 円	多様性の理解を 高める食文化を通 じた国際交流事業
一般財団法人 MRA ハウス助成 金	一般財団法 人 MRA ハウ ス	200,000 円	食を通じての国 際相互理解の増進 事業

10) 基本金に関する事項

本年度末現在の基本金は下記のとおり。(円)

区 分	項 目	金 額
基 本 金	ライオンズクラブ (27LC) 京都、西、南、洛南、洛陽、鴨川、桂、北桑田、 洛東、堀川、東、華頂、洛中、みやこ、岡崎、 平安、葵、橘、紫明、北、洛北、桃山、山城、 乙訓、宇治、城陽、綴喜	13,400,000